

ここが知りたいQ&A

「外部の教育力を効果的に学校の教育活動へ導入する」と言っても、いろいろな疑問が湧いてきませんか？以下のような疑問をお持ちではありませんか？

Q. 外部の専門的知識をどのように生かすとよいでしょうか。

A. 総合的な学習の時間などでゲストティーチャーを招くことが増えてきています。これからは学習の時間だけでなく、教育活動の様々な場面で、外部の人材を積極的に導入することが必要になってきます。防犯・防災についての専門的知識を持つ企業と連携して、安全教育・指導を行っている学校の実践例があります。 (5ページへ)

Q. 家庭教育の啓発を図りたい。

A. 最近、基本的な生活習慣の習得や家庭学習の定着化など、家庭での教育の重要性が見直され、各学校でも家庭教育を支援するために様々な取組が行われています。地域ぐるみで家庭教育支援を行っている学校の実践例があります。 (7ページへ)



Q. 不登校の子どもたちに、どう対応すればいいでしょう。

A. 担任の先生や学校だけで不登校の子どもへ対応するには限界がありますね。一人一人の子どもに対して様々な対応が考えられるので、関係諸機関としっかり連携を図ることが必要です。学校外部の団体が学校と連携しながら、独自のシステムを構築して不登校の子どもたちに対応している地域の実践例があります。 (9ページへ)



Q. NPO等の教育プログラムを効果的に導入したい。

A. 学校教育支援のための教育プログラムをもつ企業やNPOが増えてきました。それらの団体とうまくつながりを持ち、連携を図って教育プログラムを導入することで教育効果が上がります。独自の視点でキャリア教育を進めているNPO団体と学校がうまく連携した実践例があります。 (11ページへ)



Q. 保護者や地域、社会と連携するよさは？

A. 現在、学校には先生方だけで対応しきれない数々の課題があります。そこで外部の専門的な知識を導入したり地域の協力を得たりして、課題解決をしようとしている学校が増えてきました。自治体でこのような取組をしている地区に地域連携の必要性についてお話を伺いました。
(13ページへ)

Q. 学校教育コーディネーターの役割は何でしょうか？

A. 学校教育コーディネーターは、学校外部にある教育力を学校の教育活動に効果に導入するために、学校と外部の教育力をつなぐ役割を果たしています。実際に各地区で学校教育コーディネーターの活動を行っている方々に、活動の様子やその経験から学校や先生方に感じていること、学校教育コーディネーターとして心がけていることなどについて話していただきました。
(15ページへ)

Q. 地域や社会との連携について

都教委は、どんな取組をしていますか。

A. 東京都教育委員会では、17年度から東京都の重点事業として、学校教育と社会教育の連携・融合の視点に立った「学校、家庭、地域が協働する仕組みづくり」を目指す取組「地域教育連携推進事業」を行っています。その中で大きく2つの事業を展開しています。その基本的な考え方と具体的な事業内容について御説明いたします。
(21ページへ)



Q. 連携できる団体を知りたい。

A. 地域教育連携推進事業の1つである「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」の会員になっている団体と連携できます。実践例で紹介した企業やNPOも会員です。それ以外にも会員登録している団体がいらっしゃいます。ここではそのいくつかの団体の実践例を御紹介します。
(27ページへ)